

# 最終章 将来展望

「豊かな関係性から生まれる喜びを  
未来の井原の力に」

井原市ひとづくりアドバイザー  
大正大学地域創生学部教授 浦崎 太郎氏



プロフィール  
昭和40年岐阜県生まれ。岐阜県立高校の教諭などを経て、平成27年4月から大正大学教授に。高校と地域の協働に関する政策提言やその体制確立に向けた支援を全国各地で展開。総務省地域力創造アドバイザーも務める。

「社会が複雑多様化する現在、子どもたちに対する教育はどうあるべきと思われませんか。」

「互いに立場を越えて、共に学び、共に創り出していく力」すなわち『共学共創』できる力を付けていくのが鍵です。

換言すれば、個別の能力を高める「足し算」よりも、関係性を豊かにしていく「掛け算」が重要になります。それは、断片化された組織や個人には全体像や未来像を把握する力や創り出す力が弱いとは対照的に、共学共創ができていく組織や集団は、全体

像や未来像をより鮮明に把握する力があるからです。

それには、幼少時から「どんな地域にするために、どのように役割を果たし合っていくべきか」を地域の多様な人々と一緒に考える経験が大切になります。そうした経験の中で、どうしたら自分らしく活躍できるかが自然に浮かび上がり、地域で自分を表現できる喜びを味わうことができるようになります。

「本市が取り組んでいるひとづくり事業をどのように評価されますか。」

すでに、学校の先生方だ

けではなく、市内の多様な方々も交えて「掛け算」が始まり「みんなと一緒に井原の未来を創り出している」という気運が高まっているところが素敵です。

全国的に見ても岡山県は、人づくりに対する理解が深い県ですが、さらに井原市は地域の皆さんが自発的に行動しておられる点では全国屈指の存在で、価値が高い取り組みだと思います。

今後、自分らしく地域に参加できる喜びを感じる人が増えるとともに「志縁コミュニティ」が広がり、その中で自然に「井原、志、民」が育っていくと思えます。大切なのは「大人が子どもを育てる」のではなく「大人も子どもと一緒に育つ」在り方になっている点です。

「もっと多くの大人が子どもと関わっていくためにはどうすればよいでしょうか。」

それは、子どもと活動を共にする喜びを実感できる機会を地道に増やし

ていくほかに道はありません。大切なのは「形」ではなく「喜び」。そこに焦点を当てて活動を丁寧に組んでいけば、自然に広がっていくでしょう。

「各中学校区、小学校区にひとづくりネットワーク運営協議会が設置され、各地区で動き始めています。今後の課題はどのようなことがあるでしょうか。」

いろいろな組織や会議を思い出していたけど、すぐに分かることですが、組織や会議が意味をなすかどうかは「参加者間で掛け算が起こり、喜びが生まれるか」どうかによって決まります。やはり大切なのは「形」ではなく「関係性」です。また、その地区の活動を地区内の人々だけで実施しようとすると、どうしても多様性が損なわれ、生まれる喜びも限定されてしまいます。そのため、地区外の人を迎えることが大切になります。そもそも地域に住む「土の人」だけで完結しようと

いうのは農耕社会の発想であり、今日的な閉塞感の元凶です。地域外からの「風の人」を迎えて掛け算をする姿勢が欠かせません。つまり、大人の姿勢が組織化の速度に影響を及ぼし、ひいては子どもたちの未来に影響する構図になっています。

「このひとづくり事業は、人口減少を抑制するため、将来の定住やUターンを期待する側面がありますが、子どもたちに夢をあきらめさせて、地域に縛り付けることもできません。こういったジレンマをどう消化すべきでしょうか。」

井原に生まれ育った子どもだけでなく井原の未来を創っていくという発想は捨てましょう。

井原で生まれ、井原で才能を伸ばした子どもたちは、広い世界の中から自身が能力を最大限に生かせる場を選んで旅立てばよい。その一方、井原の魅力に惹かれてやってくる人々は温

かく迎え、掛け算を楽しむ。  
井原が伸びていくか、子どもが井原から出ていくかどうかの問題ではなく、井原に残る大人や子どもが「風の人」との掛け算を楽しめるかどうかの問題です。

大切なのは、井原を旅立っていく子どもたちにも、井原に残る子どもたちにも、「掛け算をして喜びを生み出す」力をつけることです。

「先生の印象で『井原らしさ』とは。そしてそれを最大限生かすために必要なことはどういったことが考えられますか。」

子どもに対する温かさですね。それがあからこそ、市民主体で動きが起これ、それが行政の事業にまで発展したのだと思います。

こうしたことは、井原の皆さんにとっては当たり前なのかもしれませんが、なかなかないことです。そんな素敵な持ち味を市民の皆さんが自覚することが大切だと思います。



## あなたのキャリア 生かしてみませんか

このひとづくり事業でも頻繁に出てくる「キャリア」という言葉。

「キャリア官僚」や「キャリアウーマン」と聞くと、エリートを表す言葉のように感じる人もいるかもしれませんが。しかしこの「キャリア」の語源は「轍(なまぢ)車輪の跡」なのです。

これは学歴や職歴だけではなく、家族、友人関係、趣味など、それぞれが歩んできた道に刻まれたあらゆる経歴のことで、成功もあれば挫折もあり、人によってさまざまです。

子どもたちが、こうした他の人の「キャリア」について、話を聞いたり、体験を通じて感じたりすることは、進学や就職など、その後の人生にとって大きな糧になります。あなたのキャリアを井原のひとづくり、まちづくりに生かしてみませんか。

◆チームむげんろ Team夢源♡井原としては、活動する中高生、それを支える大人を募集しています。活動の見学も可能です。

◆井原イバLoversとして各学校でのワーク&ライフ交流会などで、児童生徒に対して、職業観や人生観を伝えていただく井原Lovers。是非ご登録ください。

◆各地域で各小学校区および中学校区にひとづくりネットワーク運営協議会が設置されています。その活動に参加してみませんか。

興味のある人はお問い合わせください。  
町生涯学習課

(☎) 33347



Team夢源♡井原や井原Loversとして活躍する皆さん